

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*47社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
()内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2015/12月	2016/3月	6月	9月	12月	2017/3月	2017/6月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	6	2	8	17	14	(6) 12	10
うち製造業	9	18	0	40	40	(20) 40	30
非製造業	5	▲ 3	11	11	8	(3) 5	5
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲15	▲ 7	▲ 2	▲18	▲20	(▲20) ▲ 9	▲17
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	0	0	0	▲ 3	3	3	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	0	▲ 2	▲ 7	▲ 5	0	(▲ 5) ▲ 6	▲15
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲ 9	▲28	▲24	▲39	▲37	(▲31) ▲34	▲45
資金繰り < 楽である - 苦しい >	▲ 2	▲ 2	2	11	15	13	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	26	22	20	34	34	33	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲ 7	▲22	▲22	▲18	▲18	(▲ 7) ▲22	▲11
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲ 5	9	7	4	▲ 4	(▲ 2) 2	0
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	26	15	30	17	27	(27) 31	35

(注) 「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2017/6月までの予測」は調査対象外。

（事業計画）

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

	2015年度実績	2016年度実績見込				2017年度計画		
		上期		下期		上期	下期	
売上高	+1.0	+0.3 < +1.0 >	+1.4 < -0.2 >	-0.7 < +2.1 >	-1.3	+0.6	-3.1	
経常利益	+70.2	+21.9 < +10.5 >	+25.4 < +5.9 >	+18.6 < +15.5 >	-5.2	+1.4	-11.8	
当期純利益	2.2倍	+33.7 < +12.4 >	+15.9 < +12.3 >	+60.0 < +12.6 >	+3.2	+17.3	-11.8	
設備投資額	-69.0	-10.2 < +8.5 >	+31.4 < +3.0 >	-45.2 < +21.8 >	-7.8	-12.8	+2.2	

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2017年3月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 47 社（製造業 10 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 47 社）
- 回答期間：2017年2月27日～3月31日

1. 業況判断 DI

- 3月の業況判断 DI（全産業ベース）は+12 と、前回 2016 年 12 月調査に比べて小幅悪化した（前回+14、前回比▲2 ポイント）。
 - 製造業の業況判断 DI は+40 と、前回調査比変化なし。
 - 非製造業の業況判断 DI は+5。建設関連や卸・小売が好転したものの、観光関連で悪化した先がみられたため、前回調査比小幅の悪化だった（前回+8、前回比▲3 ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・2017年6月までの予測：+12⇒+10）は、小幅悪化を予測。
 - 製造業は、建設資材関連で悪化を見込んでいる（+40⇒+30）。
 - 非製造業は、卸・小売で好転を見込む一方、建設関連や観光関連で悪化を見込んでいることから、全体では横這いの見込み（+5⇒+5）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超－供給超〉」（▲20⇒▲9）は、建設関連、運輸やサービスを中心に前回比供給超幅が縮小。先行きは再び供給超幅が拡大する予測（⇒▲17）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（+3⇒+3）は不変。「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（±0⇒▲6）は、建設関連や観光関連を中心に再び不足超に転化。先行きも不足超幅が拡大する見通し（⇒▲15）。
- 「雇用人員判断 DI〈過剰－不足〉」（▲37⇒▲34）は、一部に不足感が解消した先もみられたものの、依然として不足感を訴える先が多い。先行きは、不足超が一段と拡大する見通し（⇒▲45）。
- 「仕入価格判断 DI〈上昇－下落〉」（+27⇒+31）は、サービスで下落したも

のの、建設関連を中心に上昇超幅が拡大。先行きも上昇超幅が拡大の予測(⇒+35)。「販売価格判断 DI<上昇-下落>」(▲4⇒+2)は、水産加工、建設関連、卸・小売を中心に再び上昇超に転化。先行きは、上昇超の解消を予測(+2⇒±0)。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、借入金利水準は引続き「低下している」と回答した先が多く、金融機関の貸出態度も緩い超幅が大きい状況が続いている(「借入金利水準判断 DI<上昇-低下>」: ▲18⇒▲22、「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い-厳しい>」: +34⇒+33)。資金繰りについても引き続き「楽である」と回答する先が多い(「資金繰り判断 DI<楽である-苦しい>」: +15⇒+13)。

3. 事業計画

- 2016年度の売上高は、前年度比+0.3%とほぼ横ばいの実績となる見込み。経常利益は同+21.9%、当期純利益は同+33.7%の増益での着地を見込んでいる(前回調査比上方修正)。設備投資額は同▲10.2%となる見込み。
- 2017年度については、売上高は前年度比▲1.3%と小幅減少の計画。経常利益は同▲5.2%、当期純利益は同+3.2%の計画。設備投資額は同▲7.8%の計画となっている。

以 上

(参考)

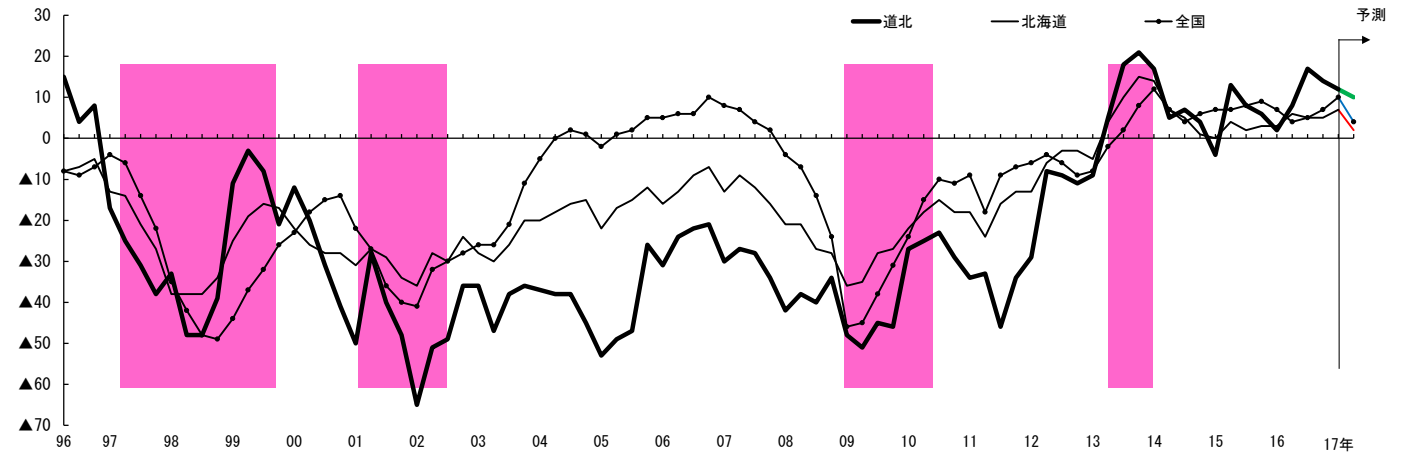
業況判断D.I.(道北・全道・全国)

業況判断D.I.(「良い」-「悪い」、%ポイント)

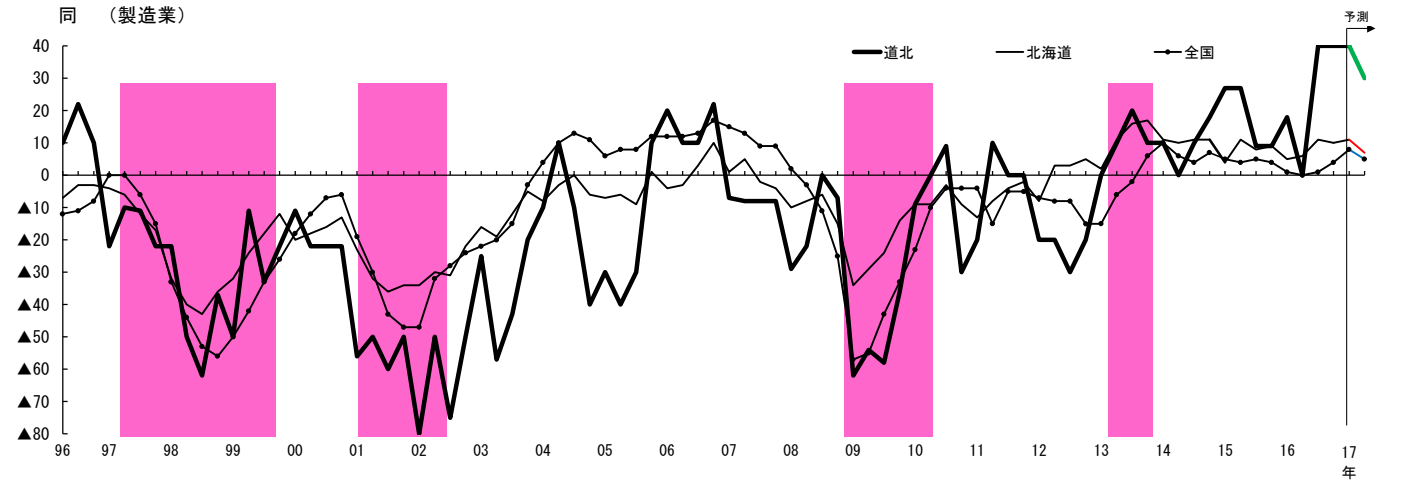
		2016/9月	12月	2017/3月	2017/6月予測
道北	全産業	17	14	12	10
全道	全産業	5	5	7	2
全国	全産業	5	7	10	4
	大企業	12	14	16	14
	中堅	10	12	15	8
	中小	0	2	5	▲ 1

2017年3月短観・調査結果

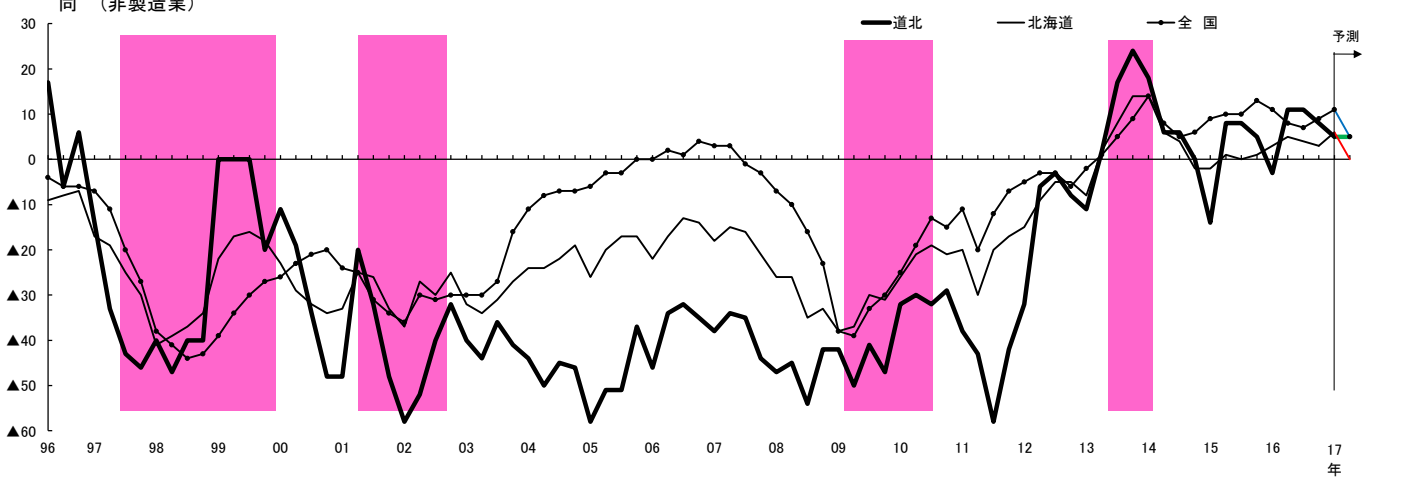
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)

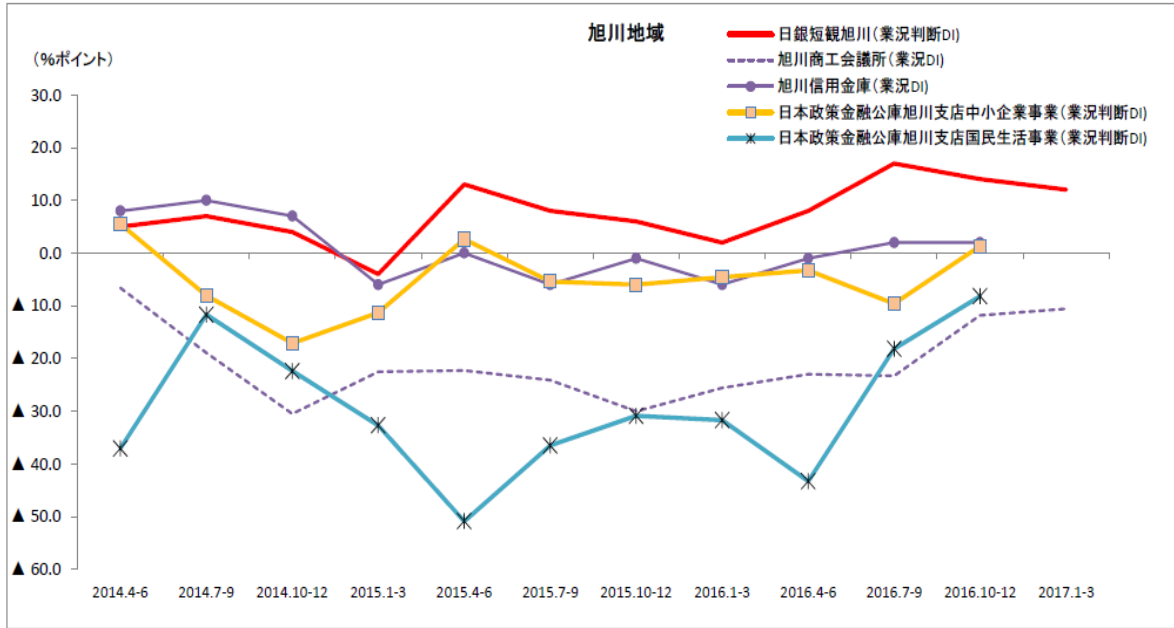


同 (非製造業)



(注)
 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。
 シェッドは景気後退期（内閣府調べ）

景況感に関する他機関の調査結果



注) 旭川商工会議所 DI は、四半期最終月の DI。2017.1-3 は、2月 DI。

【調査対象企業数】

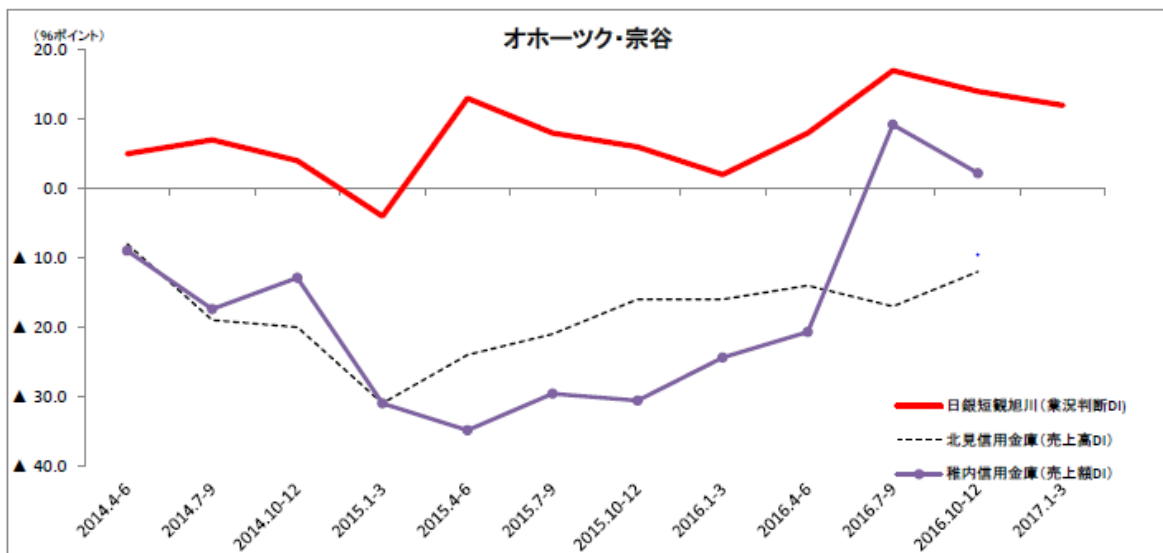
日銀短観旭川：47社（上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内）

旭川商工会議所：200社（旭川市内）

旭川信用金庫：162社（近郊を含めた旭川市および富良野市）

日本政策金融公庫旭川支店中小企業事業：151社（上川・留萌・宗谷・オホーツク総合振興局管内および空知総合振興局管内のうち深川市と雨竜郡）

日本政策金融公庫旭川支店国民生活事業：74社（上川・宗谷・留萌管内および空知管内のうち北空知地域<深川市、秩父別町、北竜町、雨竜町、妹背牛町、沼田町>）



【調査対象企業数】

日銀短観旭川：47社（上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内）

北見信用金庫：181社（北見地区）

稚内信用金庫：141社（宗谷総合振興局管内および、天塩町、遠別町、雄武町）